

「第7期 福島こども未来塾 第1回」



【参加者】 小学5年生～中学2年生
 【場所】 東日本大震災原子力災害伝承館
 リプルんふくしま
 いわき海浜自然の家

○事業趣旨

- ・東日本大震災について学び、ふるさと福島県に貢献する意識を高める。
- ・1年間を通して学ぶ仲間と協力しながら取り組む大切さを知る。

○参加者内訳

対象	男	女	計
小学5年生	11	21	32
小学6年生	11	16	27
中学1年生	6	0	6
中学2年生	0	0	0
合計	28	37	65



○活動日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23												
6/19 (土)						東日本大震災原子力伝承館			東日本大震災原子力伝承館			バス移動 途中休憩15分		いわき海浜自然の家																
						双葉町産業振興センター			A館 展示見学			フィールドワーク			語り部															
						到着受付			開会式			B館 フィールドワーク			展示見学			語り部												
6/20 (日)	いわき海浜自然の家					バス移動					リプルん福島					富岡町太田公園														
	起床 部屋 清掃										体験学習① 体験学習② 展示見学					移動					昼食					閉会式				
	ラジ オ体 操																													
	朝食																													
	荷物 整理																													

○研修トピックス

「東日本大震災・原子力伝承館 ～東日本大震災について学ぶ～」

双葉町内を見学する「フィールドワーク」、東日本大震災発生当初の状況や復興に向けて現在の取り組みなどについて話を聞いた「語り部」、東日本大震災に関係する資料を見た「館内見学」を行った。子どもたちは、「お家の人から聞いていたから、なんとなく知っていたことなどがはっきり分かった」、「東日本大震災についてお家に帰れない人がいて悲しい気持ちになった」などの感想をもった。

「ミーティング ～みんなが楽しく学べるようにするためにはどうすればいいか～」

これから全7回の未来塾で「みんなが楽しく学べるようにするためにはどうすればいいか。」をテーマに『自分自身がどうすればいいのか』、『仲間とどう学んでいくか』、について考えた。話し合いの中で友達の考えを認め合いながら、未来塾のめあて・自分自身のめあてとして1年間の目標をたてることができた。

「リプルん福島 ～環境について学び、考えよう～」

放射線測定、いろいろな水のPH測定などを体験し、生活ごみと震災で出たごみの処理の仕方などの違いについて館内見学を通して学んだ。水に薄められたジュースを中和し、魚が住める状態にするには、大変手間がかかることなど、リプルん福島の実験環境への取り組みに驚く塾生が多かった。

○成果と課題

<成果>

- 塾生は、当時1～3歳であり、東日本大震災時の状況を覚えていない。学校での震災講話を通して震災について学習していた子どももいたが、実際その場に行ってみたり、話を聞いて状況を知ったりすることで子どもたちにとって東日本大震災について関心を持つきっかけになった。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、開塾式を2グループの半数程度に分けて実施し、密集せざるをえない状況時には、フェイスシールド着用とマスクの着用などを講じながら、プログラムを実施した。

<課題>

- 福島県内では、新型コロナウイルス感染症の流行の山を越え、何とか実施することができた。今回のプログラムにあたり、新型コロナウイルス感染症対策についてスタッフマニュアルで共通理解を持っていたが、塾生や保護者へも事前に感染症対策について伝え、みんなが安心して参加できる準備も必要であった。